1
2008.Jan

Credit Guarantee Corporation of Hokkaido

保証のしるべ

Guide of Guarantee

千歳 支笏湖氷瀑まつり

Contents

No.590

●年賀 …… 2
●年頭所感／北海道知事　高橋はるみ …… 3
●年頭のごあいさつ／北海道信用保証協会　会長　丸山　達男 …… 4
●新春論壇／最近の経済情勢と新年度の展望
㈱北海道銀行　道銀地域企業経営研究所　経済調査室長　松本　則栄 …… 5・6
●たんぽぽ資金「道クイック」をご利用ください！ …… 7
●事業概況／平成19年11月 …… 8

北海道信用保証協会

謹んで新年のお慶びを申し上げます

平成二十年　元旦

北海道信用保証協会

会　長　丸山達男
専務理事　前田憲孝
常務理事　渡辺正昭
常務理事　荒川範昭
常務理事　村田勝巳

ほか職員一同

年頭所感

北海道知事
高　橋　はるみ

新年明けましておめでとうございます。道民の皆様とともに新しい年を迎えることができましたことを、大変嬉しく思います。

お陰をもちまして、私も、再び道政を担わせていただき、初めての新春を迎えました。皆様には、平素から道政各般にわたり深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝を申しあげます。

さて、昨年を振り返りますと、北海道の大切な「食」のブランドに影響を与える食品の偽装事件など、大変残念な出来事がありました。また、道職員が相次いで逮捕されるという不祥事が生じ、道政を預かる知事として、誠に申し訳なく思っております。この度の事態を厳しく受け止め、私自身を含め、道職員一人ひとりが深く自戒し、道民の皆様の信頼回復に向けてあらゆる努力を重ねてまいる所存です。

一方、昨年は、道民球団である日本ハムファイターズのパ・リーグ連覇、道産子ボクサー内藤大助選手の世界タイトル獲得、コンサドーレ札幌のＪ１昇格など、スポーツが、私達にたくさんの夢と感動、そして、元気を与えてくれた年でもありました。

また、道政との関連では、「北海道洞爺湖サミット」の開催決定や、両陛下ご臨席のもとでの「全国植樹祭」の開催といった明るい話題が続いたほか、自動車関連産業をはじめとする企業立地の活発化や、バイオマス、雪氷冷熱などを活かした新エネルギーの開発、活用の取組が各地で展開されるなど、北海道の明日につながる着実な歩みが見られた一年であったと感じております。

こうした中、道財政は危機的な状況にあり、改めて行財政改革の見直しを行っていかなければなりません。しかし、私は、この改革は本道の未来を担う子どもたちへの責任、いわば希望を秘めた変革ととらえ、最善を尽くす覚悟であります。同時に、道政展開に当たっては、決して縮み志向に陥ることなく、北海道の将来を見据え、伸ばすべきものは伸ばす、そして、北海道の元気の源は、それぞれの地域の活力であるという観点から、地域経済の活性化はもとより、医療・福祉の充実など暮らしの安全・安心を支える、きめ細やかな取組をしっかりと進めてまいりたいと考えております。

北海道は今、経済や暮らし、環境といった様々な面で大きな転換期を迎えております。その一方で、各地域には、これまでそこで働き、生活してきた人々の歴史と文化が刻み込まれています。私たちはその貴重な財産を、時代の変化に合わせ、より豊かなものとしてしっかりと将来に引き継いでいかなければなりません。

本年七月には、「北海道洞爺湖サミット」が開催されます。サミットの開催は、北海道の恵まれた自然環境をはじめ、食や観光、文化など、あらゆる面で本道の価値を高める大きなきっかけとなります。私は、このチャンスを道民の皆様とともに大切にし、地域に根ざし、世界に開かれた新しい北海道づくりを進める飛躍の一年としてまいりたいと考えております。皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

新しい年が、皆様にとりまして、希望に満ちた幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭のごあいさつ

北海道信用保証協会 会長

丸　山　達　男

新年あけましておめでとうございます。

平成20年の年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。

昨年のわが国経済は、製造業を中心に企業収益が好調を持続し、輸出や設備投資が増加を続けるなど、景気は緩やかに回復してまいりました。

しかしながら、北海道におきましては、公共投資や住宅投資の減少が続き個人消費の伸び悩みもあって景気の回復は遅れ、原油・原材料価格の高騰等の影響もあり、中小企業の経営環境は依然として厳しい状況が続いていたものと感じております。

このような状況の下、当協会では中小企業者の方々に対して、より幅広く事業資金を円滑に供給できるよう、新たに小規模企業者への安定的な資金調達を維持し、経営の安定に資することを目的とした「小口零細企業保証制度」を創設するとともに、「新規保証キャンペーン」及び「長期保証キャンペーン」を実施する等、積極的に保証の推進を図ってまいりました。

また、私的整理を実施し事業再生を行う中小企業者の方へ支援することを目的とした「事業再生円滑化関連保証」や、過去の事業で失敗した経験を生かして事業に再チャレンジする環境の整備を図ることを目的とした「再挑戦支援保証」を創設し、さらには、経営再建の見通しがある中小企業者の方へ支援することを目的とした「ランクアップサポート保証制度」の手続きの簡素化や保証限度額の拡大等の改正を行い、企業再生にも力を注いでまいりました。

昨年10月には信用補完制度改革の最重要課題でありました、責任共有制度が実施されましたが、当協会といたしましては、金融機関、関係機関との連携を一層強化し中小企業の皆様の資金ニーズにお応えするとともに、経営支援・再生支援への取り組みをさらに進めているところでございます。

このような結果、保証承諾につきましては、前年度をやや下回っておりますが、保証債務残高につきましては、前年度を上回る状況で推移しております。特に保証債務残高につきましては昨年９月に初めて9,000億円台を突破いたしました。

一方、代位弁済につきましては、道内の厳しい経営環境により今年度に入り増加基調が続いており、前年度実績を上回る見込みにあります。

今年は、多様化する中小企業施策への迅速な対応や事務の効率化、安定したシステムの運用を目的として、５月稼動に向け他協会とのコンピュータシステムの共同化を進めているところでございますが、スムーズな導入ができるよう全力で取り組んでまいります。

また、コンプライアンスおよび個人情報の保護のため、適切な組織管理、情報管理の徹底を図るとともに、中小企業の良きパートナーとして、「信頼される協会」「顔の見える協会」を目指し、役職員一丸となって努力してまいりますので、引き続き皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新春論壇

最近の経済情勢と新年度の展望

㈱北海道銀行　道銀地域企業経営研究所
経済調査室長　**松　本　則　栄**

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり、景気の現状と新年度の展望について所感を述べさせていただきます。

（体制挽回に向け守りが固められた07年）

07年の日本を代表する漢字は「偽」となりました。食品偽装や消えた年金など、誰にとっても身近で大切なものへの安心が揺らぎ、不信感が広がったことから、この漢字が選ばれたものと思います。偽といえば、05年に明らかになった「耐震強度偽装」問題も尾を引いています。耐震構造を厳格に審査するために07年に建築基準法が改正されましたが、皮肉なことに、建築着工の大幅な遅れにつながり、国内景気に冷や水を浴びせてしまいました。一方、世界的には、米国サブプライムローンの焦げ付きによる影響が予想を超える広がりをみせ、堅調だった世界経済の先行きに不安を与えています。経済という側面から07年を振り返ると、こうした予想外に大きな影響をもたらした問題に対し、各企業や政策当局が、体制挽回に向けて守りを固めることに労力を裂いた年だったと思います。そのためもあってか、経済の動きの中で、“積極的な挑戦”、“攻めの姿勢”といった点では、やや印象が薄い1年だったのではないでしょうか。

一方、われわれ道民を喜ばせてくれたのは、「積極的な挑戦、攻めの姿勢」がストレートに報われるスポーツの世界の爽やかさでした。北海道日本ハムファイターズは、ヒルマン監督の下、選手各人が、開幕前の低い評価を見返す奮闘ぶりで効率的に攻め勝ち、パリーグ2連覇を果たしてくれました。期待と不安で道民が仙台に送り出したマー君も、重圧に潰されること無く、豪快な三振奪取で新人王を獲得しました。コンサドーレも苦闘の末、J1復帰という結果を出しました。ボクシングの道産子世界チャンピオン内藤選手は、注目の試合に勝利し、国民的スターに飛躍しました。新年は、スポーツだけでなく経済活動においても、“守りを固めた上での積極的な攻め”が報われる1年になってほしいものです。

（07年度実質成長率、国内1.4%、道内▲0.1%）

ここで、改めて昨年の景気動向を振り返ってみましょう。07年の日本経済は、海外需要の堅調さを背景に、回復基調を持続しました。しかし、建築基準法改正の影響などによる建設投資の落ち込みを主因に、成長率は低下が見込まれます。02年以降の景気回復をリードしてきたのは、輸出と設備投資です。このうち、輸出は、サブプライムローン問題の影響で減速が予想される米国向けの減少をアジア、欧州向け等が補い、概ね前年並みの伸びを確保しそうです。しかし、設備投資は、原材料・燃料価格上昇などを背景とした企業収益の足踏み、景気の先行き不透明感などに、法改正の影響も加わり、伸び悩むとみられます。住宅投資も大きな減少が避けられません。個人消費は底堅く推移するとみられますが、力強さには欠けそうです。当行が12月にまとめた経済見通しでは、07年度の国内実質成長率を1.4%とみています。

一方、道内経済は、全国と同様に建築着工が大幅減となったことに加え、財政悪化や原燃料価格上昇の影響が全国よりも大きく、足踏み状態のまま推移しました。需要項目別にみると、個人消費は、雇用者や退職所得の増加（前年比580億円増）の半面、1人当たり賃金の減少（同▲1.2%）、定率減税の廃止（同480億円の負担増）、燃料費負担増（同520億円増）などから、個人消費は引き続き低調（実質0.1%）に推移する見込みです。住宅投資は、法改正による着工遅れに加え、物件価格上昇による販売低迷、貸家の投資効率低下もマイナス要因となり、着工戸数44千戸（前年比▲12.7%）、投資額（実質▲10.3%）ともに大幅減となります。設備投資は、道外大手やエネルギー関連などで投

新春論壇

資増が見られますが、地元企業では一部を除き収益悪化から慎重姿勢を強めており、前年並みにとどまりそうです。公共投資は引き続き大きく減少します。この結果、07年度の道内経済は、▲0.1%と4年ぶりのマイナス成長が見込まれます。

（新年度は道内もやや持ち直し、実質0.4%成長）

08年度の日本経済についてみると、内需主導で、前年度よりもしっかりした足取りの回復が予想されます。まず、07年度に堅調に推移した輸出は、米国を始めとした海外景気の減速から鈍化が見込まれます。その一方、法改正の影響一巡で、住宅投資が持ち直します。個人消費についても、雇用者数の増加、賃金下げ止まりなどから、引き続き底堅く推移します。また、生産活動の増勢維持や、海外景気減速等を背景とした原燃料価格の上昇一服などから、企業収益が再び伸びを高めるとみられ、設備投資の盛り返しが期待されます。このため、08年度の国内実質成長率は2.3%と、2年ぶりに2%台を回復すると予想されます。

一方、08年度の道内経済は、建築着工持ち直しや、国内景気回復による波及効果拡大などからプラス成長に転じますが、盛り上がりには欠けたまま推移しそうです。需要項目別にみると、個人消費は、家計の税・社会負担が引き続き増えるものの、雇用者数の持ち直し、退職所得増などから雇用者報酬が増加に転じ、低水準ながらも、伸び率をやや高める（実質0.2%）とみられます。住宅投資は、法改正の一巡から全国同様プラスが見込まれます。ただし、持家・分譲住宅では、団塊ジュニア世代の需要一服や賃金の改善遅れ、貸家では投資効率低下などが制約となり、総着工戸数は46千戸（前年比6.1%増）、投資額は実質2.4%の伸びにとどまるとみられます。設備投資を業種別にみると、製造業では、バイオエタノール工場建設本格化などがプラス材料。非製造業では、電力・ガス・鉄道などのインフラ関連や各地の駅前再開発関連での投資増が見込まれます。また、各業種とも省エネ関連投資の増加が予想されます。しかし、全体としてみると、地元企業の収益改善遅れなどから、投資額は低い伸び（実質0.4%）にとどまりそうです。また、公共投資は依然マイナスですが、国内経済の再加速から、移輸出は伸び率を高めるとみられます。この結果、道内経済の実質成長率は0.4%と予測されます。

（新規需要の創出、各地で気運高まる）

08年度の北海道経済はマイナス成長を脱し、やや上向くとみられます。しかし、その力は弱く、全国との成長格差がさらに広がることが予想されます。公共投資の削減が続く中、自立経済を目指す北海道にとって最も必要なのは、道内外での新たな需要創出でしょう。この点に関しては、道内各地で着実に気運が高まってきたと思います。その一つは、道産食品への評価の高まりと道内各地での地元産品を利用した新たなブランド食品づくりの動きです。例えば、これまで不人気だった道産米が、農業関係者の知恵と努力で品質を高め、道内消費量を拡大したほか、道外外食産業でも需要を伸ばしています。十勝の長いものように、アジアで好評を博し、輸出を伸ばす農産物もでてきました。道内各地では、士別のサフォーク種羊肉や江別小麦など地元産品を材料にした食品や、高品質な生鮮素材などを新たな地域ブランドとして、対外的に売り出そうという動きが増えています。昨年、道内で起きた食品に関わる問題は、道産食品全体への信用を揺るがしかねない危機でもありましたが、改めて“安全・安心”を再構築し、道外にアピールするきっかけになったと思います。二番目は、食とも関連しますが、地域づくりを現場や地域住民のアイデア主導で推進する動きが増えていることです。独自アイデアにより、入場客を10年間で10倍前後に増加させた旭山動物園がその代表例ですが、知恵と汗を出し惜しみせず地域振興に捧げようという道産子が着実に増えているのは心強いことです。三番目は、環境・エネルギー分野が新たな基幹産業として期待されることです。風力、バイオガス、雪氷エネルギー、バイオディーゼルなど、豊富な道内資源を利用したエネルギーの利用拡大が推進されているほか、国内最大級のバイオエタノール生産施設の稼動が近く予定されていることも北海道の強みです。四番目は、自動車関連など大手製造業の道内進出が相次いでいることです。道内の生産、雇用にプラスという直接効果に加え、取引を通じた道内企業のレベルアップにより、道内製品の競争力向上が期待されます。最後に挙げられるのは、北海道への海外からの関心の高まりです。海外からの観光客、スキー客の増加などを背景に、北海道は「魅力ある地域」だというイメージが、海外にも徐々に浸透しつつあります。

08年はサミット開催により、国内外から北海道への関心が一段と高まりそうです。ただし、何もしなければ、一過性の盛り上がりに終わります。食、観光、環境などの分野で、北海道ブランドの質を一層高め、北海道の知名度を国際的に定着させる良い機会にしたいものです。道民全体の知恵を結集し、強力に世界に向けて北海道をアピールしていけば、必ず北海道経済浮揚のきっかけになるものと思います。本年もよろしくお願いいたします。

たんぽぽ資金「道クイック」をご利用ください！

平成18年度から道が実施している、たんぽぽ資金「道クイック」につきまして、無担保保証金額の算出の運用方法を一部改正し、より利用しやすくなりました。

本制度は、お客さまに担保や第三者保証人を求めることなく迅速な審査による事業資金の融資の円滑化を図ることにより、お客さまの事業活動の促進に資することを目的とする制度で、信用保証料率も、基準となる信用保証料率から20%の割引を実施しておりますので、どうぞご利用ください。

資格要件	道内に事業所を有する中小企業者
融資限度額	3,000万円
資金使途	事業資金（ただし、不動産の取得を除く）
返済方法	分割返済
保証期間	1年以上7年以内（ただし、据置期間は6ヵ月以内）
貸付形式	証書貸付
融資利率	金融機関所定
担保	不要
保証人	原則として代表者のみ

基準料率（責任共有保証料率）　（単位：%）

区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
料率	1.90	1.75	1.55	1.35	1.15	1.00	0.80	0.60	0.45

「道クイック」の保証料率（責任共有保証料率）　（単位：%）

区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
料率	1.52	1.40	1.24	1.08	0.92	0.80	0.64	0.48	0.36

※保証協会で定める要件に該当する場合は、上記より更に0.1%割引いたします。

※「責任共有保証料率」とは、保証委託の対価として計算される保証料を貸付金額に対する率で表示したものです。

1．事業概況（平成19年11月）

（単位：百万円、％）

区分	保証申込			保証承諾			保証債務残高			代位弁済		
	件数	金額	前年比	件数	金額	前年比	件数	金額	前年比	件数	金額	前年比
11月中	3,788	36,204	56.8	3,640	34,679	56.5	—	—	—	349	2,422	198.1
年度計	**31,745**	**300,663**	**90.0**	**31,152**	**294,185**	**89.9**	**127,730**	**890,639**	**106.8**	**1,955**	**13,457**	**175.2**

2．金融機関群別保証取扱状況

（単位：百万円、％）

区分／金融機関	保証承諾 11月中			保証承諾 平成19年度計			保証債務残高			
	件数	金額	前年比	件数	金額	前年比	件数	金額	前年比	構成比
都銀	17	227	278.5	184	2,473	177.9	557	6,383	102.0	0.7
地銀	490	6,723	84.1	3,938	58,606	93.1	17,622	195,210	106.4	21.9
（道銀）	283	4,115	93.9	2,428	37,876	88.2	10,804	130,642	106.5	(14.7)
（北陸銀）	172	2,321	78.8	1,212	17,708	111.4	5,596	55,023	106.7	(6.2)
第二地銀	1,038	11,357	76.8	8,193	92,056	90.1	35,873	277,395	104.8	31.1
（北洋銀）	825	9,122	82.0	6,262	74,520	92.2	25,586	213,396	104.3	(24.0)
（札幌銀）	213	2,235	60.9	1,931	17,536	82.4	10,287	63,999	106.5	(7.2)
信金	1,772	14,309	47.1	15,190	117,649	88.8	61,585	351,394	108.2	39.5
信組	308	1,897	24.2	3,563	22,357	83.1	11,524	55,413	112.7	6.2
その他	15	166	67.1	84	1,044	77.0	569	4,844	86.5	0.5
合計	**3,640**	**34,679**	**56.5**	**31,152**	**294,185**	**89.9**	**127,730**	**890,639**	**106.8**	**100.0**

3．本支所別保証取扱状況

（単位：百万円、％）

区分／本支所別	保証承諾 11月中			保証承諾 平成19年度計			保証債務残高			
	件数	金額	前年比	件数	金額	前年比	件数	金額	前年比	構成比
保証部	1,460	14,568	51.9	12,734	124,031	84.0	52,157	379,472	107.1	42.6
函館	283	2,490	55.7	2,558	23,727	91.5	10,436	76,503	102.4	8.6
帯広	213	2,316	60.9	2,042	19,080	108.9	9,376	56,026	113.7	6.3
北見	298	2,714	70.1	2,175	19,334	98.0	8,607	54,337	107.7	6.1
小樽	224	2,001	61.1	1,405	13,595	80.0	6,124	44,473	104.5	5.0
旭川	479	4,198	67.5	4,081	37,505	100.2	16,759	116,667	106.3	13.1
釧路	285	2,566	55.6	2,528	23,655	93.0	9,671	64,095	105.0	7.2
室蘭	125	1,321	53.5	1,105	10,378	85.0	4,401	32,036	107.7	3.6
滝川	117	1,167	49.4	1,083	10,529	105.1	4,134	27,897	105.5	3.1
苫小牧	156	1,339	60.4	1,441	12,350	85.8	6,065	39,133	108.8	4.4
合計	**3,640**	**34,679**	**56.5**	**31,152**	**294,185**	**89.9**	**127,730**	**890,639**	**106.8**	**100.0**

※金額並びに構成比については、すべて四捨五入となっているため合計欄と一致しない場合があります。

保証のしるべ No.590
北海道信用保証協会
http://www.cgc-hokkaido.or.jp/

発行日　平成20年1月7日
編集・発行
郵便番号　060-8670　札幌市中央区大通西14丁目1番地
電　話　直通 011(241)5554・FAX　011(221)6998
北海道信用保証協会　総務部